特集
まえがき

# PFAS汚染問題への科学者と市民の共同

畑　明郎

本特集は，2023 年 11 月 25 日に開催された日本科学者会議近畿地区会議主催の「PFAS 汚染問題シンポジウム」を契機に企画された．

シンポジウムでは，国内の PFAS 汚染を明らかにするとともに，PFAS の毒性を解明した小泉昭夫京都大学名誉教授が「PFAS 環境汚染にどう立ち向かうのか」と題して講演した．次に，「大阪 PFAS 汚染を考える会」事務局長の長瀬文雄氏が，会の取り組みを報告した．最後に筆者が「近畿地区と滋賀県内の PFAS 汚染」を報告した．

その後も PFAS が全国各地の浄水場や河川で検出されており，2024 年 5 月に国土交通省は，47 都道府県の担当部署や国認可の水道事業者などに文書で水道水の PFAS 調査と 9 月末までの報告を求めた．

一方，2024 年 6 月に国の食品安全委員会の作業部会は，「PFAS 許容摂取量を定めた評価書案」を取りまとめたが，許容摂取量は欧州の 60 倍以上も緩いものだった．

本特集では，PFAS 汚染問題の現状を明らかにするとともに，科学者と市民の共同による問題解決への努力を紹介する．以下，4 本の論文と 6 本のコラムを簡単に紹介する．

小泉論文は，PFAS 汚染に対する政府の不作為を追及する．とくに，食品安全委員会の評価書を批判する．

原田論文は，PFAS 汚染の広がりとヒトばく露の現状，発覚の経緯と近年の動向を解説する．

出口論文は，PFAS 汚染の全国的な広がりと兵庫県の明石川の汚染状況を報告する．

畑論文は，近畿地方と滋賀県内の河川・水道水汚染と汚染源の考察を報告する．

4 論文に続くコラムでは，沖縄の伊波義安氏，東京都多摩地域の根木山幸夫氏，大阪の長瀬文雄氏，愛知県豊山町の坪井由実氏，岐阜県各務原市の今尾明美氏および三重県四日市市の松岡武夫氏が，それぞれ各地の PFAS 汚染の状況と市民の取り組みを報告する．

本特集が，PFAS 汚染問題の解決の一助となれば幸いである．

（はた・あきお：元大阪市立大学，環境政策）